

南極と高岡 中継結ぶ

基地の暮らし、自然紹介

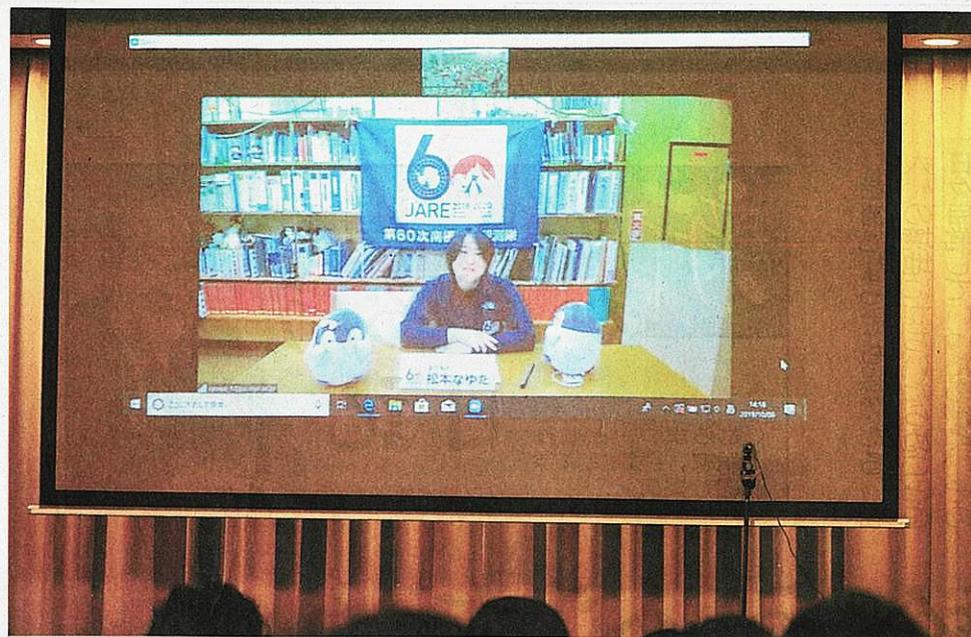
青少年の国際交流などを推進するラボ国際交流センター（東京）の南極中継イベント「南極からのリアルなメッセージ」は6日、高岡市の福岡にぎわい交流館で開かれた。約1万4千名離れた昭和基地と会場を衛星回線で結び、第60次南極地域観測隊員の松本なゆたさん（39）＝金沢市出身＝が、富山、石川県内の親子ら約100人に南極の自然や暮らしを伝えた。

観測隊員の松本さん

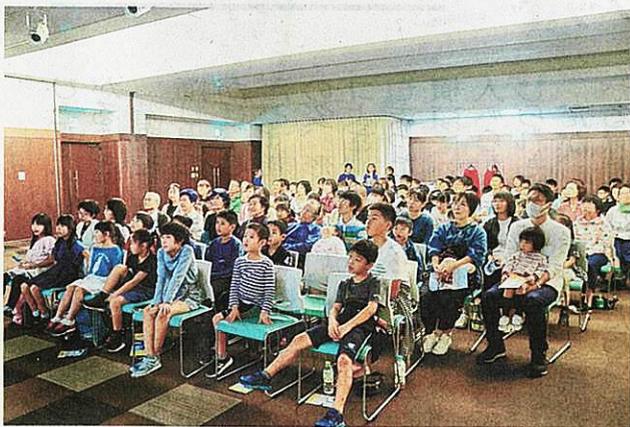
中継時の現地の気候は付近が見えないほどの暴風雪で、スクリーンにその光景が映し出されると、来場者から驚きの声が上がった。参加した砺波市砺波南部小3年の西永光汰君は「実際に南極に行つてオーロラを見てみたい」と感想を述べた。

会場には降り積もった雪でできた南極の氷や、隊員の防寒服が展示され、コミュニケーション能力の向上を図るワークショップも行われた。

松本さんは来年3月まで南極に滞在して、地質調査に取り組むことになっている。松本さんは、基地ではオーロラを真上に見ることができ、観測に適していると説明。バ―やカフエ、病院に加え、トマトやキュウリを育てる農場があることも紹介した。参加者からは「南極でも温暖化が進んでいるか」「南極で見た一番素晴らしい景色は」などと質問が飛んだ。



衛星回線を通じて昭和基地の生活を語る松本さん
—高岡市の福岡にぎわい交流館



スクリーンに映し出された南極の自然に見入る参加者

2019年10月7日(月) 富山新聞(朝刊)より